

ひろしま木育アカデミー2022 第3回木材編「木材に触れて親しむ活動を取り入れた木育」を8月11日（木・祝）に福山商工会議所にて開催しました。

はじめに、「木材に触れて親しむことによる効果」として、木材の見た目・肌触り・香りが人に与える作用と木育プログラムが人に与える効果について、人の心理面・生理面の測定結果を中心にお話しました。専門的な内容を含むため難しいところもあったと思いますが、木材の（良い面の）効果の1つを共有することで、木のおもちゃに触れることの意味を考えるきっかけづくりを行いました。

次に、「子どもにとってのおもちゃの役割」について山口大学教育学部の川崎徳子先生よりお話し頂きました。非認知能力を育むことの重要性、乳幼児期からの発達・学びの連続性、遊びと環境など、おもちゃと子どもの発達・遊びとの関係について学ぶことができました。単に木のおもちゃを与えるのではなく、何で木のおもちゃなのかを考える第一歩になったのではと考えています（私自身、とても勉強になりました!!）。

午前中の最後として、パパフレンド協会の北佳弘様より実践事例紹介を行って頂きました。木のおもちゃやアプリなどを活用した多くの実践事例や普及啓発活動の問題と解決方法などを共有することができました。



午後は、はじめに「木のおもちゃを体験しよう」として、木の玉プール、薄い板の積み木、クミノで実際に体験する活動を行いました。まず、クミノ工場の井上慎也様よりクミノ、一場さんより木の玉プールの説明を行った後、どのような遊びができる？、どのような木材や木のおもちゃの特性に触れることができる？、安全面は？、の3つの視点を考えながら実際に遊んで頂きました。私自身、実際に遊んでみると、おもちゃによって遊び方や触れることができる木の特長に違いがあることを知ること、新たな発見をすることができました。



最後の「木育プログラムを企画しよう」では、「木のおもちゃを通して木材に触れて親しむ」をテーマに、まず3種類のおもちゃを体験したときに考えたこと・気づいたことの共有と3種類の中から対象（ex. 6 か月から1歳6 か月ころ）の子どもに適した木のおもちゃの選定を行いました。その後、対象の保護者に木のおもちゃの特徴（良い点・注意点）と遊び方（安全面を含む）の伝える内容を考え、模造紙にまとめるワークショップを行いました。



今回で3回目となったひろしま木育アカデミー2022、特に「木育プログラムを企画しよう」については可能な限り取り組みやすくなるように改善してきました。その結果が少しずつですが見えてきたのではないかと考えています。また、今回は「木のおもちゃを体験しよう」の前に木のおもちゃを扱う上での注意点を簡単に説明しました。木育アカデミーへの参加が木の特徴や効果（良い面&注意点）知り、木育を学ぶきっかけになればいいなあと考えているところです。

次回は、8月27日（土）第4回ものづくり編「ものづくりを取り入れた木育1-木のはしづくり」 in 広島大学東広島キャンパス・教育学部となります。多くの皆さんの参加をお待ちしています。